

## 水泳部の取り決め

### 部活動として

- 1.水泳を通じた「人間形成などを学ぶ場」として活動します。そのため、水泳以外のこと（報連相や生活習慣等）を学ぶ機会があることが、スイミングとは大きな違いであることを理解して活動します。そのため、社会に出ても一番大切な欠席連絡については、厳格にしたいと思います。授業延長、レポートのため、体調不良など、様々な要因があると思いますが、学生ですから学業優先が当たり前です。無断欠席は、社会では通用しないことを学びます。各学年で連絡できる体制を作ります。
- 2.水泳部のイベント（ドーム作成・新入生歓迎会・パティオマスターズ支援・合宿・公式大会・高専祭に係る活動・各種試合の支援・追い出し・キャンプなど）については、部活動の一環として実施しますので、基本全員が参加するのが当たり前です。ただし、編入試前であるなど様々な要因のため不参加になることも想定されますが、必ず事前にキャプテンや顧問に相談して承諾を得ます。
- 3.特にお金が絡む（高専祭やキャンプ・追い出し）などは、使途や会計を明確にし、一人に任せず複数で対応します。以下は過去にあった事例を参考に決めた内容です。
  - ①高専祭でアーティスティックスイミングと模擬店は、どちらも水泳部が高専祭を上げるための活動であり、両者に差があるものではないはずですが、模擬店活動者だけにプラスの返金をしたことがあり問題となりました。そのため、出資金は全員から均等に集め、収益があればその出資金と同額は返金し、余剰があれば全員で打ち上げに行き、お金を使い切る（打ち上げに参加しない学生への支援は無し）ことにしています。それでも残金が出た場合には、部費に寄付という形で預金に組み入れています。
  - ②アーティスティックスイミングで募金活動を行っていますが、募金活動の意味は使途に賛同してもらって受けるものです。元々アーティスティックスイミングを実施したのは、競技力だけが水泳部の魅力ではなく、また、競技力以外でも力を発揮できる機会を作る、高専祭を盛り上げるための活動として始まりました。そのため、本来はお金を取って披露するものではありません。ただし、水泳部として、活動費（例えば、アーティスティックスイミングに使用するスピーカーの購入、部員全員が使用するヨガマット購入など）目的をもって募金活動することは問題ない（募金の主旨を必ず説明文として準備する）と思っています。また、この募金についても個人で管理せずに、水泳部の別途預金として管理します。
- 4.高専祭への水泳部としての参加は、高専祭を水泳部として盛り上げることが主旨です。この主旨から逸脱する模擬店での儲け主義である場合は、出店参加は認められません。「安くてもうまい」や「高くても量が多い」などのお得感や納得感があり、水泳部の名声が高まるような活動を目指します。
- 5.部費については、1か月500円として年間6,000円を徴収しています。一括払いにする

必要はありませんが、数か月まとめて徴収すると思います。途中退部者については、返金するかどうかは、その都度、キャプテンと顧問で協議します。また、年間の大会参加費は個人負担です。ただし、日本水泳連盟団体登録費や各種リレー、学生連盟主催の大会や会議参加の交通費、各種振込手数料、冬季中のプールへのお礼の手土産などは、部費より支払いを行っています。

- 6.部費については、毎年使いきる形で次年度への繰り越しはしていません（ただし、4月のパティオなどの支払いがある 10 万円程度は残しています）。年度により違いはありますが、追い出しコンバの補助をしたり、冬季中の練習への交通費がかさんでいる学生に返金したりすることもあります。これらのことは年度により一概には言えず、余剰金があればこのように利用しています。
- 7.現在、会計は顧問が実施していますが、年度末には必ず選手（マネージャー）が監査を行い、部費の使用について見直しなど相談しています。
- 8.年に数回、チームミーティングを実施します。最低でも年度初め、新入部員を交えて部の方針を伝えることや、高専祭前に冬季活動を含めた確認を2回は行います。
- 9.選手同士の連絡は密ですが、顧問へのほうれんそう（報告、連絡、相談）、かくれんぼう（確認、連絡、報告）が疎かにならないようにします。選手、マネージャー、顧問はワンチームです。このほうれんそうとは、水泳に限らず、勉強など、相談すべきであること全てを指しています。
- 10.キャプテンを筆頭に、自分の立場を自覚し、何をすべきかをよく考え行動するチームにしたいと思います。学生のチームですから、顧問に言われて発言や行動を起こすのではなく、何がこのチームに足りないか、自分がこのチームに貢献できることは何かなど、自発的に活動できるチームを目指します。
- 11.特にお金を扱う場合は、透明性のある処理を行い、他のメンバーに代わっても、同じ処理ができる流れにします。また、変更を伴う場合は、部員全員の理解を得たうえで変更を行うこととします。
- 12.練習と休憩でメリハリをつけます。特に、時間には厳しく対応します。5分前行動を意識するとともに、練習開始と同時に入水できる状態が当たり前の形にします。冬場の朝練は、水泳部の練習を理由に授業に遅れたり、レポート課題ができなかったりがないよう、時間に対して強い意識を持ちます。
- 13.年度内のことは、次年度に持ち越さずに、年度内で完結するように活動します。特に、お金に関しては、厳しく対応します。
- 14.大会参加費など、担当者に支払いをする場合は、必ず封筒（使用済みでも OK）に入れて名前と金額を明記して提出します。また、提出時や返金時には必ず相手に承諾を得て、目の前で金額を確認します。過去にたった数 10 円ですが記載通りでなくて困ったことがあります。お金の取り扱いに関しては、十分に注意と配慮をします。
- 15.連絡事項で「誰か伝えて…」は、必ず「〇〇さん伝えて…」と責任を明確にします。

## 練習について

- 1.夏季（4月～10月）の水泳部としての練習日は、基本平日5日と土日のどちらかの週6日です。冬季は週3日の練習日となり、年間を平均すると週休2日以上になります。シーズンスポーツですから、頑張れる期間が限られています。ただし、学業を優先することも必要です。個人の都合（学業・病院・教習所・散髪など）により、不参加になることも考えられます（水曜日と休日1日はコア日として、この日は全員参加を目指します）。また、平日は授業などで遅延参加や欠席が多くなるため、実質週5日や週4日の参加となることも考えられます。学業あつての部活動です。遅延、欠席の連絡をすることで、夏季活動中は学業と両立できるようにコントロールします。
- 2.試合1週間前の練習には全員が参加し、チーム力を高めます（この1週間内に欠席し、通院や体調不良の選手はリレーには選出しません）。臨機応変な対応が必要な場合は事前にキャプテンと顧問に相談します。
- 3.大会など土日の両日活動があった場合は、その対象となるメンバーだけが月曜日はOFFとします（高校生だけ、大学生だけの練習日が存在します）。
- 5.スイミングでの活動について特に規制はありませんが、個人の母体（試合に出て活躍したい場所）が高専水泳部であるのであれば、各大会前1週間は水泳部の活動に参加します。リレーの引継ぎだけでなく、チーム力を高めるためには最低1週間は必要だと考えています（1週間のうちに1回来たら良い程度では無いと思っています）。また、年間を通して、週1回は部活動に参加します。参加方法は、スイミングまでの時間に声出しするとか、短時間でも泳いで帰るとか、内容は特に問いません（部活動に加入する意義を考えます）。
- 6.冬季（11月～3月）の水泳部としての練習日は、基本平日2日と土日のどちらかの週3日とします（3月は平日3日の週4日）。また、平日朝練があった同日の午後1回（これまでは木曜日）筋トレ練習日とします。冬季中の練習参加率が極端に少なくなることが問題となったことがあります。現在は学校のルールと同じ冬季練習期間（11月～3月）の練習回数に対して、1/3以上の欠席がある場合は次年度の選手登録は行っていません。4月以降に参加数を増やしても、この1年間は試合への出場は不可能となります。そのため参加状況が悪くなるようであれば、退部を促します。再度、選手登録を希望する場合は、年間を通じて規定通り参加することが必要となります。ただし、国指定の疾病や公欠と認められる事項については、分母から省いて計算しています。
- 7.例年、9月の県高校Jr大会後は、10日～2週間のoffを設けています。
- 8.4年生において、9月の県高校Jr大会後に「編入試対策」「公務員対策」で学業に専念したい学生については、本来なら5年間を通して部活動することが基本ですが、退部や休部という形ではなく、水泳部では特別に在籍のまま学業専念を認めています。ただし、部活動の諸活動には必ず参加しない場合は退部を促します。また、退部をせずに在籍できるシステムですが、冬季の練習規定通りに次年度の選手登録は行いません。次年

度も選手登録を希望する場合は、他の選手と同じように冬季期間に2/3以上の出席が求められます。4年生の9月以前の期間で、学業専念ルールは設けていません。

- 9.学業に不安がある学生は、テスト1週間前だけでなく日頃から学業に励む努力をします。ただし、それでも時間が足りない場合は、キャプテンや顧問に相談し、10日前～2週間前からのテスト勉強期間を申し出てます（再評価で事前欠席は認めていません）。
- 10.マネージャーだけが声出しするのではなく、日頃から全員で声出しして練習を盛り上げます。また、記録を言われたら、手を上げる、返事するなど、聞こえたことを意思表示します。

## その他

- 1.練習作成については、選手内で当番制としています。個人の思いで作成せず、時期的に必要な内容を共有しながら作成します。
- 2.各学年には、それぞれの役割分担が決められています（例えば、新入生のユニホーム担当学年や塩素注入担当学年、キャンプ計画など）。ここには明記しませんが、全体で必ず共有します。
- 3.プールの更衣室は、水泳部の部室ではありません。本来の部室で更衣してプールに入るとは、水泳部に関しては不可能なので、利便的にプールの更衣室を間借りしている形だと認識しています。間違っても荷物が散乱することなく、定期的に清掃は実施します。特に、4月からは男子更衣室は神戸市消防チーム、5月からは男女更衣室を水泳の授業でも使用することを念頭に置いています。（基本プールの更衣室は体育授業用です）。
- 4.様々な伝承ごとは、チームで共有できるようにします（例えば、ドーム作成手順や高専祭での模擬店計画など）。伝承方法は、水泳部のライン keep に挙げるなど共有します。
- 5.高校大会エントリーは高校キャプテン。大学大会エントリーは学連担当。近畿高専や全国高専エントリーは5年キャプテンが責任をもって行います。また、大会への参加については、チームとして参加しているため、個人的な理由により出場しない場合は、キャプテンや顧問に相談します（特にスイミングへ行っている人の不参加が多くなっています）。各大会において、人数制限のない大会については各自自由にエントリーを行い、人数に限りがある大会については、キャプテンと顧問がチームの内情を考え学年上位からエントリーを検討しています。また、上級大会に繋がる場合は競技力上位でエントリーするようにしています。
- 6.一度指導を受けたことの繰り返しがあります。例えば、練習最後のダウンは「歩かない・しゃべらない・さぼらない」などは、学生同士で共有します。また、練習は試合のための練習と捉えて、足がつっても止まらない。水を飲んでも泳ぎ切る。失格になるようなターン動作を行わないなど、常に試合を想定した練習実施を心がけます。